

抗がん剤の副作用について No. 5

末梢神経障害

はじめに

末梢神経とは、脳や脊髄から分かれた後の、体の中に分布する神経をいい、熱さ、冷たさ、痛さといった温痛覚や触覚を伝え、また、手足の位置、運動の変化、振動などを認識する働きをします。がん化学療法に伴い、これが障害されると、しびれや痛みが現れたり、痛みや熱さ、冷たさなどに対する感覚が鈍くなったりします。

末梢神経障害をおこす主な抗がん剤

- 1 植物由来
パクリタキセル(タキソール)、ドセタキセル(タキソテール)、エトポシド(ラストット)
- 2 植物アルカロイド
ビンレルビン(ナベルビン)、ビンクリスチン(オンコビン)
ビンブラスチン(エクザール)、ビンデシン(フィルデシン)
- 3 代謝拮抗剤
フルオロウラシル(5FU)、シタラビン(キロサイド)
- 4 白金製剤
シスプラチン(ブリプラチン)、カルボプラチン(パラプラチン)
オキサリプラチン(エルプラット)、ネダプラチン(アクプラ)
- 5 アルキル化剤
イホスファミド(イホマイド)、メルファラン(アルケラン)
- 6 抗生物質
アムルビシン(カルセド)、ピラルビシン(テラルビシン)
エプルビシン(ファルモルビシン)



タキソール、タキソテールの原料
(ヨーロッパイチョウ)

末梢神経障害の症状

- 1 指先に皮一枚貼った感じ
- 2 手袋・靴下をはいている感じ
- 3 足・手のぴりぴりする感じ、しびれ
- 4 筋力低下、脱力感
- 5 筋肉痛、関節痛・・・など

このような症状や徴候があつたり、不安や、気になることがあれば、すぐに医療関係者に相談してください。

ほとんどの場合、症状は、抗がん剤の中止により2週間から8週間で軽減、消失しますが、なかには中止後も長期間継続する場合があります。

末梢神経障害の薬物療法

しびれなどに対しては、有効性が明らかな薬剤はありませんが、一般的には次のような薬剤が使用されています。

しびれ症状の緩和

- | | |
|----------------|---------------------------|
| ☆ ビタミン製剤 | ピドキサール錠、メチコバール錠、ビタメジンカプセル |
| ☆ 非ステロイド性消炎鎮痛剤 | モービック錠 |
| ☆ 漢方薬 | 牛車腎気丸
など..... |

筋肉痛・関節痛の緩和

- | | |
|----------------|--------------------|
| ☆ 非ステロイド性消炎鎮痛剤 | ボルタレン錠、ロキソニン錠 |
| ☆ 三環系抗うつ薬 | トリプタノール錠、アモキサンカプセル |
| ☆ 漢方薬 | 芍薬甘草湯
など..... |

日常生活での注意点

ケガ、転倒防止	炊事用のゴム手袋を使う(感覚が一層鈍くなるときは、使わない)。 つまずきそうなものを床に放置しない。 小さなマット、滑りやすいカーペットなどは敷かない。 爪を切りそろえておく。 大きいもの、重いものを動かすときは、無理をしないで手伝ってもらう。
熱傷の防止	カイロを長時間身につけたままにしない。 ストーブのそばに長時間いない。 熱いものには触れない。
その他	手袋や靴下で保温する。 手指の運動を積極的に行い、末梢神経を刺激する。 温かい湯、冷たい水に交互に手足をつけて、末梢循環をよくする。